

生理検査

総括 心電図	野久謙	岐阜大学医学部附属病院
心臓超音波	倉家淳	高山赤十字病院
血管・腹部・その他の超音波	高梨喜子	岐阜県多治見病院
神経生理	中島直美	大垣市民病院

生理検査総括

野久 謙

[岐阜大学医学部附属病院]

2015年度も、従来通り日臨技システムを利用した出題形式となった。変更点としては、動画像の閲覧が日臨技システム上で可能となり、岐臨技サーバーへ置いたファイルへアクセスしなくても良くなったことが挙げられる。

動画閲覧状況のアンケートでは、回答のあった19施設中17施設で、ほぼ問題なく表示されたとのことであった。表示されなかったとの回答が2施設あった。後日行った当該施設への電話調査では、いずれもシステム上のトラブルでは無く、最終的に閲覧することができたとのことであった。

参加施設数は、心電図 36 (前年34) /心臓超音波 31 (同 30) /血管超音波 23 (同 24) /腹部超音波 19 (同 20) /神経生理検査 脳波 27 (同 29) 神経伝導速度 26 (同 26) であった。

本年度設問数は、心電図 4問 /心臓超音波 4問 /血管超音波 2問 (昨年1問) /腹部超音波 4問 (同 3問) /神経生理検査 4問であった。

なお、評価対象外とした設問が 2問 (心電図と腹部超音波) あった。

今回も呼吸機能検査は問題作成が困難なため実施できなかった。

評価対象外設問について・・・

例年通り、正答が最頻度回答とならなかった場合は評価対象外とすることとした。これにより、今回は、腹部超音波 設問3。(選択肢の 2 と 5 が同数の 8 施設で最頻度回答) を評価対象外とした。

また、フォト作成ミスにより、心電図検査の設問1が評価対象外となったことは深い反省点であり、今後同じミスを繰り返さない為にも、設問の最終確認作業の改善を図る必要があると考える。

本年度も、精度管理調査が検査データの是正に役立つよう、2次サーベイの実施や1次評価公開後に再入力期間を設け、さらに今回より、再入力期間に結果を訂正された施設には「是正処理報告書」を提出

して戴いた。

実際に再入力を実施した施設は、参加36施設中18施設と半数に上った。「是正処理報告書」の提出は11施設で、7施設が未提出であった。

なお、設問ごとの再入力実施状況を以下に示す。
心電図：(設問2) 8/36施設、(設問3) 4/36施設、(設問4) 6/36施設。

心臓超音波：(設問1) 3/31施設、(設問2) 4/31施設、(設問3) 1/31施設、(設問4) 3/31施設。

血管超音波：(設問2) 2/23施設。

腹部超音波：(設問1) 1/19施設、(設問4) 2/19施設。

神経生理：(設問1) 1/27施設、(設問2) 1/27施設、(設問3) 3/27施設であった。

分野別正答率は、1次→2次の比較において、
心電図：(設問1) 91.4 →91.4 %、(設問2) 55.6 →77.8%、(設問3) 83.3 →94.4%、(設問4) 75.0 →91.7%。

心臓超音波：(設問1) 74.2 →83.9%、(設問2) 67.7 →80.6%、(設問3) 96.8 →100%、(設問4) 90.3 →100%。

血管超音波：(設問1) 91.3 →91.3%、(設問2) 86.4 →95.5%。

腹部超音波：(設問1) 94.4 →100%、(設問2) 77.8 →77.8%、(設問3) 44.4 →44.4% 評価対象外、(設問4) 78.9 →89.5%。

神経生理：(設問1) 96.3 →100%、(設問2) 96.3 →100%、(設問3) 84.0 →96.0%、(設問4) 100 →100%。以上の結果であった。

来年度への課題としては、①呼吸機能検査関連のサーベイの実施、②「是正処理報告書」の提出率を100%とすることなどであると考ええる。